

大阪府立国際児童文学館 REPORT



編集・発行=財団法人大阪国際児童文学館 〒565-0826 吹田市千里万博公園10-6 大阪府立国際児童文学館内 TEL06(6876)8800 FAX06(6876)8686 http://www.iiclo.or.jp

竹下景子さんの講演より

大人が子どもらしく居心地のよさを



今日、はじめて児童文学館の書庫に入り、蔵書のごく一部を拜見したわけですが、本体だけではなく、函や帯なども含めて出版当時のままで保存されていることが、図書館にはないことだけの持っているところ、機能のことということが、私にとっては目から鱗でした。

子どもに関する本ということがひとつの大きな括りですけれども、それだけに留まらない、江戸末期に出ていた「於とぎばなし」から今の雑誌に至るまで本が網羅されていて、タイムスリップしたような感じでした。

子どもの本というのは、絵本も含めてまだまだ日本では価値が見出されたのは最近で、歴史が浅いということがかがったのですが、児童文学というものの価値は、これからむしろ分析されて、もっと大切さが知られていくべき分野だろうなと思います。

そのときに、ここにある70万点に及び蔵書の価値というものが、ますます大事に、日本のというよりは、世界に向けての価値のあるものだと思います。

子どもがすすく育っていくために、わたしたち大人は出来る限りの努力は惜しまないでいきたいと思うし、その

大人が子どもらしくいられる場所というのでもまた少ないわけですから、ぜひこの場所をみんなで大事にして、愛して、もっとたくさんの人たちが、この居心地のよさというか、ここにきて幸せな時間を過ごせるようになってほしいなと思います。

ぜひ、一緒にがんばりましょうね。

※朗読とトーク「竹下景子さんと子どもの本を楽しむ」より

皆さまへの感謝を込めて

理事長 松居直

08年度は、当館にとって激動の二年となりました。橋下知事就任以降、施設の廃止、財団の見直しと荒波をかぶり、当面の現地存続を訴える全会一致の請願むなく、府議会で廃止となりました。非常に厳しい運営を強いられた二年でしたが、そのなかでも各方面より絶大なご支援・ご協力を賜り、皆様に支えられて今日があることを痛感いたしました。本当にありがとうございます。

当財団にとりまして、09年度はさら到大変な年です。70万点に及び資料をはじめ、これまで蓄積してきた機能や専門性をいかにして残していくのか。日本の児童文化の将来にも大きく関わる問題だけに、関係団体ともより一層連携を密にし、各方面のご理解をいただきながら、今後の進路選択を誤ることのないよう全力を尽くす覚悟です。今後ともご支援・ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

手塚治虫コーナーオープン



手塚治虫コーナーに展示された文化賞特別賞の賞状とアトム像

●なつかしの本に出会おう！
バックヤードツアー
6月から、当日参加フリーのバックヤードツアーを開始しました。職員が解説しながら、書庫を含めて案内しています。中学生以上向けと小学生向けがあり、毎週土・日・祝日の午後3時から実施しています。千人以上の方が参加してくださり、貴重な本や子どもの頃に読んだなつかしい雑誌、マンガや街頭紙芝居などに会って、非常に楽しかったという声が寄せられています。

●インドと日本の絵本

「インドの絵本」をテーマに、次の国際交流事業を実施しました。この事業は在阪企業からの協賛金により実施しています。

- ①シンポジウム「アジアの絵本の世界へようこそ」インドと日本の絵本」
09年3月1日(日) 講師：インドラプラシット・ロイ(インドの絵本作家) 秋野亥左(絵本作家)



- ②報告集「インドと日本の絵本」の作成「絵本」や「インド」に対する理解を深め、研究を促進するため、シンポジウムの記録と3本の報告を日本語・英語の2カ国語で出版しました。

- ③インドの絵本の魅力を伝えるため、インドの絵本の貸出用セット作成
インドの絵本70冊を選出し、解説付リストを作成しました。

- ④子ども向きおはなし会の開催

当館をもっと知ってもらいたい！
という願いを込め、「じどうぶんかくかへいこう」のメッセージが入ったオリジナルバジマクネットを制作しました。

当館ゆかりの作家にご協力いただき、8種類の絵柄が完成。子どもたちに大人気の「かいけつゾロリ」は、作者の原ゆたかさんによる描き下ろしです。



館オリジナルグッズを制作

1個1000円の単品購入館内の「ガチャガチャ」のみと、5個入りのセット購入があります。セットはホームページからも購入いただけます。また、当館支援者にデザインしていただいた素敵な「国際児童文学館行き方MAP」もできました。近隣の駅や施設に設置し、ホームページにも掲載しました。



資料

国際交流事業の二環として
アジアの絵本貸出セット

05年度より国際交流事業の二環としてアジアの絵本貸出セットの作成と団体への貸出を行っています。各国の作品から厳選した絵本を、邦訳があるものはそれも併せて貸し出しています。

韓国絵本Aセット・Bセット、中国語圏の絵本セット、タイの絵本セットに加え、新たにインドの絵本セット(70冊)を作成しました。学校での異文化教育の教材や、図書館での展示などに活用いただいています。

企画展示と
公共図書館用展示パック

- ①「タイの絵本の現在」展/08年4月1日~4月29日
- ②「村岡花子と「赤毛のアン」」展/5月20日~7月29日

古書紹介

雑誌「きんのりん」第六輯(三高童話倶楽部編、金の林檎刊行会(京都)発行。1924(大正13)年2月1日)



旧制三高の在校生とその出身者が集い、三高童話倶楽部なる組織を立ち上げ、児童文化の同人雑誌を発刊していた事実が殆ど知られていない。その目的は「少年少女の情操陶冶を理想とし高踏的創作を生み出し、少年少女に適しく且つ高尚なる読物を作る」とある。創作に主眼が置かれていたのかのようにも見

えるが、実はこの活動は単なる評論や創作だけに留まらず、子どもを集めて童謡踊や童話劇を披露して交流する「きんのりん」の会という実践活動も行っていた。この同人に若き日の武田麟太郎が加わり、ほぼ毎号作品を寄せているのも興味深い。当時、児童中心主義の教育が広まり、そのなかで児童文化運動にも関心が向けられるようになっていたが、こうした気運が旧制高校の学生にも浸透していたことを物語るものであろう。当館では、第六輯から17輯(大正15年2月)まで、計8冊を所蔵している。

- ③「手塚治虫と幼年漫画の歴史」展/8月1日~10月30日(監修:竹内オサム・同志社大学教授・07年度当館特別研究員)
- ④「大阪発!子ども文化」子どもたちが楽しんだ童謡・童話の世界」展/11月1日~09年3月6日(監修:加藤理・東京成徳大学准教授・08年度当館特別研究員) /あわせて監修者によるギヤフリートーク(11月15日)・女声合唱団アンサンブルアコールによる童謡ミニコンサート(1月18日)も実施
- ⑤「第25回ニッサン童話と絵本のグランプリ入賞作品」展/3月7日~3月30日

※これまでの展示をもとにした公共図書館用展示パック「ピーター・パンの世界」「フランダースの犬」「ネロとパトラッシュ」のさまざまな姿「イギリス生まれの伝承童謡「マザーグース」」を貸し出しています。



「大阪発!子どもの文化」子どもたちが楽しんだ童謡・童話の世界」展

公共機関等に当館資料を
特別貸出・撮影

当館では公共機関等への展示用の特別貸出や撮影を行っています。08年度は35件、553点の貸出と撮影がありました。

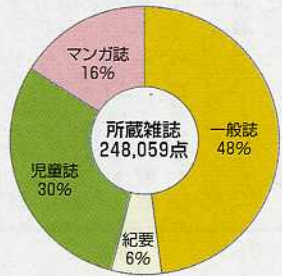
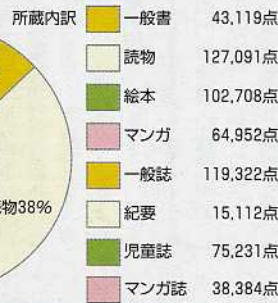
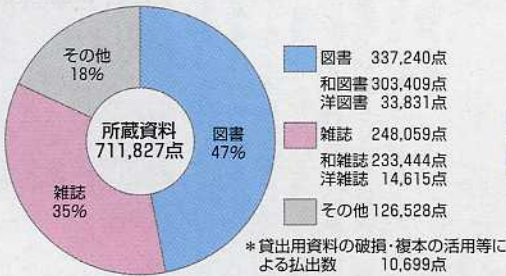
主な貸出・撮影先

- ①「童話家・東山魁夷の世界展」/市川市東山魁夷記念館/9月~10月/「コドモノクニ」巻9号ほか全17点
- ②「力作と草田男」「楽天」の絆/町立久万美術館/10月~11月/「小学少女」2巻9号ほか全7点
- ③「ソノ」の70年後の再訪日/自由学園明日館(主催:日本アイランド協会など)/10月/「ソノ」兄弟の冒険」ほか全6点
- ④NHK教育テレビ「美の壺 レトロな絵本」/NHK(撮影:日経映像)/11月/「コドモノクニ」巻10号ほか全16点
- ⑤「あら、尖端的ね。」/岡崎市美術館/09年2月~3月/「ジドワタイム」1巻5号ほか全37点

That's IICLO

所蔵資料統計平成20年度(2008年度)

所蔵資料(2009年3月末現在) 総点数711,827点



増加資料(2008年4月~2009年3月) 総点数 17,122点

